



オオタバコガ



ヨトウムシ

夜蛾の幼虫で、いわゆるイモムシです。よく間違われますが「アオムシ」は主にモンシロチョウの幼虫のこと、全身が緑色で、アブラナ科植物に付きます。ヨトウムシやオオタバコガの成虫は茶色っぽい地味な色ですが、幼虫は灰色や褐色、緑色の体に模様があります。特に好き嫌いがなくいろいろな植物に付き、葉だけでなく花や実も食べます。特に被害に気が付くのは8月以降の果菜類です。ナスやトマトの実に食い込んでくるのは、何度が脱皮して大きくなった幼虫です。もうすぐサナギになる幼虫を老齢幼虫と呼びますが、これが最も体が大きく大食漢、しかも農薬が効きにくくなっています。

ヨトウムシは卵を塊で産み、孵化したころは集団で葉の裏を食べています。このころ発見することができます。しかしオオタバコガは1つずつ産卵するので発見することが遅くなりがちです。「夜盗虫」だから夜だけ活動するんでしょ」とよく言われますが、じつは昼に土中で休んでいるのはヨトウムシの大きな幼虫だけで、オオタバコガや小さなヨトウムシは日中も食い荒らしています。なので、夜に畑に行かないと退治できないわけではありません。



今回紹介した害虫以外にも害虫はいっぱいいます。見つけたらすぐ対策をしよう。

対策

オスメはBT剤と呼ばれる、ガやチョウの幼虫専用の殺虫剤です。バチルスチューリンゲンシスという自然界に存在する菌の細胞などが原料になっており、安全性が高く使用回数制限がありません。ガやチョウの幼虫の体内にこの菌が入るとおなかを壊して死ぬという構造です。ただし大きくなった幼虫には効きにくいので、食い荒らされる前の今のうちから散布しておきましょう。

おすすめ資材

「ベニカマイルドスプレー」 1000ml 1,030円(税込)

有機JAS規格(オーガニック栽培)で使用可能な食品成分から生まれた殺虫殺菌剤です。様々な野菜やハーブ、果樹などで使えます。イヤな臭いもなく、野菜や果樹の収穫前日まで使え、使用回数の制限もありません。

○お求め・お問い合わせは、グリーンファーム各店までどうぞ。  
※店舗によってはお取り寄せになる場合がございます。



ほうさくClub! に関するお問い合わせは、各グリーンファーム店まで

- ◎中央店 ☎29-8177
- ◎さなだ店 ☎72-9030
- ◎しおだ店 ☎39-8118
- ◎東部店 ☎62-0665
- ◎まるこ店 ☎42-2977
- ◎西部店 ☎22-4091
- ◎よだくぼ南部店 ☎85-2400

ほうさくClub!

第239回  
今月は



害虫の話

家庭菜園は順調ですか?そろそろ害虫の被害に気付くころですね。おいしい作物には害虫がつきものです。代表的な害虫についてお話しします。生態を知って対策しましょう。

葉が巻いていたり、べとべとしていたり、新芽に粒々がたくさんついているなど、と思ったらアブラムシがいるかもしれません。カメムシの仲間、ストローのような細い管型の口をしています。このストローを植物に刺して汁を吸います。排泄物のべたべたする甘い汁はアリの大好物。アブラムシを食べにきた天敵のナナホシテントウなどをアリが追い払うこともあります。いつの間にかいるのでどこから湧いてきたように見えますが、じつは翅のあるアブラムシが飛んできて住み着いたのです。通常アブラムシはメスしかおらず、卵ではなく仔を毎日数匹産みます。仔は脱皮しながら7〜10日で成虫になり、仔を産みます。これを繰り返すので気付いたときには大発生なのでアブラムシが増えすぎたり植物が弱

アブラムシ



対策

苗を植え付けるときに粒剤タイプの殺虫剤を使うのがラクです。農薬を使いたくない場合はキラキラさせると良いでしょう。アブラムシの小さくて薄い翅は水に落ちると張り付いて動けなくなること、アブラムシは本能的に知っているのか、水面を連想させるキラキラしたものの近くに行きたがらないと言われていています。キラキラのテープなどを苗の近くに張っておきましょう。もし付いてしまった場合は、早めに農薬を散布します。化学農薬に抵抗があるなら、原料がデンパンや油など食品に使われる成分の農薬もあります。

つてきたりすると翅のあるアブラムシが産まれ、新天地を求めて旅立ちます。好条件下では年間で30世代も発生するというデータもあります。

植物が汁を吸われてだんだん弱っていくのも困りますが、ウイルス病をまん延させてしまうという面も見逃せません。ウイルス病に罹っている株の汁を吸ったアブラムシが、健全な植物に行くと刺すとウイルス病を感染させてしまうのです。植物のウイルス病には薬がありません。媒介する害虫を退治することしか対応がないので注意が必要です。